

「研究機関めぐり」の再開にあたって

皆様から御好評をいただきながら、都合により長らく休載しておりました「研究機関めぐり」を本号から再開いたします。本企画の趣旨は本誌第35巻第1号に述べられているとおり、最近の気象学の発展・技術の進歩・気象事業の多様化とともに、気象学関連研究機関の活動も多様化・専門化し、その活動内容も一般の会員の方々にあまり知られていない部分もあるという状況を踏まえ、このような研究機関の活動の一端を会員の皆様にも広く知って頂くことにあります。このため事務的・総花的な紹介ではなく、研究活動のユニークな点・特筆すべき研究業績・将来の構想、あるいは研究機関への入り方（採用

方法）など、執筆者個人の目でみた紹介をお願いしております。内容としては、研究者のみならず研究者を志す人たちにも参考となるものを目指しております。

今後もこの趣旨に沿って、対象としては学会員が1名しかいないような機関、ちょっと見たところ気象学との関連が薄いと思われるような機関なども含め、多様化しつつある気象学関連研究機関の現状を紹介いたします。

なお、本企画は編集委員からの依頼原稿で構成しておりますが、「是非うちの機関も取り上げて欲しい」といった御要望がございましたら、編集委員会までお知らせ下さい。検討させていただきます。（編集委員会）

第17回「リモートセンシングシンポジウム」講演募集

主催：計測自動制御学会
協賛：日本気象学会

企画：リモートセンシング部会

標記について、下記要領によって一般講演の募集をいたしますから、ふるって応募されるよう希望いたします。

期 日：1991年10月2日（水）、3日（木）〔特別講演、一般講演、懇親会〕

会 場：国立教育会館6階〔東京都千代田区霞が関3-2-3 地下鉄虎ノ門駅下車〕

特別講演：10月2日（水）午後

(1) 砂漠化—その虚像と実像—

講師 門村 浩君（東京都立大学）

(2) 世の砂漠化とその植生変化

講師 根本正之君（農業環境技術研究所）

一般講演申込締切：1991年7月15日（月）

講演申込方法：A4判用紙に下記事項を記入し、学会事務局あてお申込みください。1）題目、発表者氏名（登壇者に○印）、3）登壇者の連絡先と所属学協会名、4）400字以内の概要、5）講演分野（下記①～③の該当分野から1つずつ選んで記入してください）、6）原稿枚数（2ページか

4ページ）の指定、1）、2）については英文名も併記してください。

講演分野：①（ハードウェア、ソフトウェア）、②（応用、基礎）、③（可視、赤外、マイクロ波、その他）

講演の予稿集：講演時間は1件20分とし予稿集はオフセット印刷で1論文1,480字詰原稿用紙2ページまたは4ページとします。原稿用紙は申込の後、学会事務局より送付いたします。

講演原稿の締切：1991年9月5日（木）

参加費（予稿集代金）：当学会および協賛学協会会員6,000円、学生3,500円、一般7,500円（消費税込）

講演申込先：〒113 東京都文京区本郷 1-35-28-303
（社）計測自動制御学会リモートセンシングシンポジウム係
電話（03）3814-4121
FAX（03）3814-4699